

## 令和元年度 雄勝高等学校卒業 式 辞

暖冬とはいえ、鉛色に覆われていた空も、柔らかな陽光に、その存在感を薄め、見渡す山々に春の気配が感じられるようになりました。

新型コロナウイルス感染を抑えんがため、

秋田県 教育委員会 教育長 米田 進 様

を初め多くのご来賓、保護者、在校生の出席をご遠慮願ひ、卒業証書授与式を卒業生と限られた教職員のみで挙行することに、深い胸の痛みを感じております。

卒業証書を授与された35名の皆さんは、3年前、超スマート社会と言われる変化の激しい時代に、自らの興味関心や個性を、社会で発揮させるため、期待に胸を膨らませて本校に入学されました。

皆さんは、校訓「自啓自発」並びに、この地域における一切の固有名詞を省き「雄勝野」の一言でもってして、学び続ける意義、自立して生きる尊さを示す校歌のもと、勉学、部活動、生徒会活動、地域貢献活動等を行いました。

本日、心身共に大きく成長し、卒業を迎えられたことを、職員一同、敬意の念を持って心からお祝いたします。

平成から令和に時代が変わり、本校も単独校 雄勝高等学校から湯沢翔北高等学校雄勝校となる日も近づいてきました。

その節目の年に、皆さんは地域の方々と協力し合い様々な行事を行い、体験をしました。

一例として、グラウンドゴルフ大会や郷土料理講習会の開催、あるいは、介護福祉を希望する生徒は、地域の皆様から職場体験の場を提供していただきました。

7月下旬には、1週間に渡る雄勝建設業協会主催の建設業フェス

タ in 雄勝高校 2019 で、鉄筋工や型枠工など 5 業種に渡る職人さんたちから直に手ほどきを受けました。

また、10月4日に行われた「閉校式」に代わる「雄勝高校を語る会」では、日本陸上女子選手、初の国際大会金メダリストの浅利純子さんから

「人の出会いや挑戦する大切さ」にまつわるたくさんの方の言葉の花束を頂きました。

それに応えるように、3年生の有志は自己の個性や能力を発表する機会として、「イタリア歌曲の夕べ」を披露してくれました。

このような本物に触れる経験知により、最後の勝高祭 The 1978～では、雄勝高校の伝統を考えつつ、皆さんの自主性や企画性に磨きをかけ、新しい時代を切り拓いて欲しいという願いを、後輩たちに見事に届けてくれました。

本当に皆さんが頼もしくみえ、人間としての成長を感じました。

本校は、生徒たちに受動的な生き方ではなく、自分自身で考え抜き、表現し、他者と折り合いを付け、協働して価値を創りあげる力を伸ばすことを重視し、そのことを地域の方々も理解して、生徒は地域のために、地域の方々も雄勝高校のために、何ができるのかという関係性を築き、未来を生きる生徒の育成に、学校、地域が垣根なく尽力して参りました。

このように地域の力を拝借し、生徒が、「より良い行動」、「最適な選択」ができるよう主体的な学習を重視し、「本物」と「偽物」を見分ける「力」を養って参りました。

特に、儒教が説く五常、すなわち人が常に守るべき五つの道徳

利己心を抑えて人を思いやる「仁」

筋を通し正しいことを行う「義」

人間関係を円滑に進めるための社会秩序である「礼」

道理をわきまえ正しい判断を下す能力である「智」

偽らず、欺かず、人の信用を得る「信」

「仁 義 礼 智 信」、平たく申せば、「清く、正しく、美しく」を教育の柱に据えてきました。

この人間としての基盤が出来つつある卒業生に、

「On your feet」

という言葉をはなむけに贈ります。

皆さんを待ち構える社会では、単純な解答やマニュアル化された行動指針は通用しません。また、多くの事に自らがチャレンジする心の強さが求められます。きっと多くの失敗や挫折に苦しむ事になるでしょう。

だからこそ、あまたの失敗は、自分自身に何を気付かせようとしているのか、何を学べと言っているのか、いかなる成長を求めているのかを問うてきます。

失敗から謙虚に学び、決して環境や他人のせいにせず、自分を変えるために自己中心的な解釈を見つめ直す、すなわち、「On your feet」「自立」の心がそれぞれの人生において最大の強みになります。

自立するためには、2種類の目標を持つことが重要です。

1つは、こういうことを実現したいという「Become」の目標

もう1つは、こういう人間になりたいという「Being」の目標

この2つの目標を絶えず持ち続け、豊かな人生を作り上げてください。

結びに、令和元年度 第3993号が雄勝高等学校最後の卒業証書となります。しかし、来年度以降、地域校になれども、後輩達は

この「学び舎」で青春の時間を過ごします。校名が変われど、「雄勝キャンパス」から旅立つ生徒たちは、この学び舎で卒業証書授与式を行い、雄勝高等学校同窓会「雄勝野」に入会いたしますので、卒業生は今後とも、在校生の先輩として確かな歩みを後輩に見せてくれることを期待しております。

最後の卒業証書授与式にあわせ、卒業生と教職員によるバンド「スラムットミヌム」による Graduation LIVE 2020

小番さんの Time to say goodbye の独唱、卒業生全員での「正解」の合唱

雄勝吹奏楽愛好会の皆様による校歌演奏が実現できない切なさを胸に納めて式辞といたします。

令和2年3月1日

秋田県立雄勝高等学校長 山脇 聡